

～小中高生の「勉強」に関する意識調査～

## 小中高生の半数以上が親より勉強ができないと思っている

### 小中高生の学習において進むデジタル化

### 頑張る姿が励みになるスポーツ選手トップ 3 は

### 「浅田真央」選手、「高橋大輔」選手、「羽生結弦」選手！

オンライン学習教材「すらら」を展開する株式会社すららネット(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:湯野川孝彦)では、受験シーズンを前に小中高生の「勉強」に関する意識調査を小学1年生から高校3年生までの男女に実施しました。

- 1) 小中高生が勉強で最も集中できる時間帯は「20時～22時」
- 2) 小中高生が勉強で使うもの、「書籍(参考書・教科書)」「パソコン」の2強
- 3) 小中高生が言葉の意味をデジタル(電子辞書・インターネット等)で調べる割合 4割強
- 4) 小中高生が勉強に関して親に最も望むこと、「口出ししないで」
- 5) 親より勉強ができないと思っている小中高生が半数以上
- 6) 頑張る姿が励みになるスポーツ選手トップ 3、  
「浅田真央」選手、「高橋大輔」選手、「羽生結弦」選手

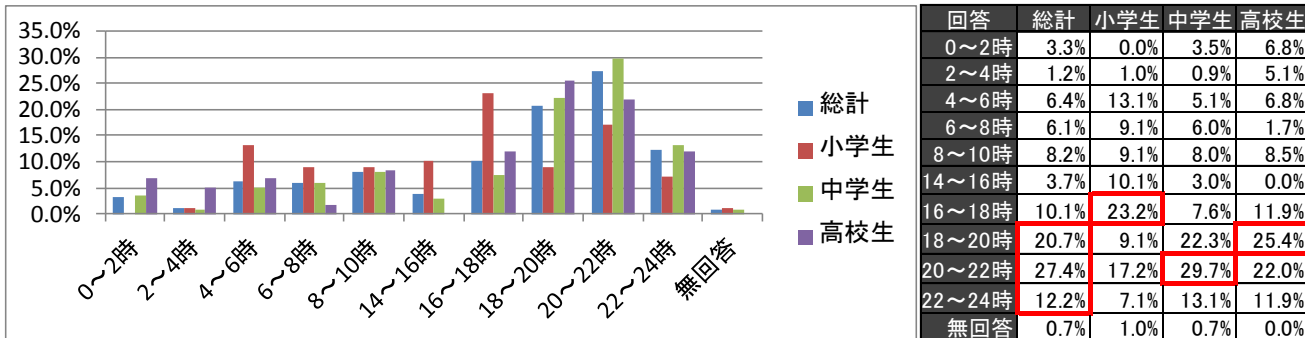
#### 1) 小中高生が勉強で最も集中できる時間帯は「20時～22時」

小中高生が授業以外で勉強するとき、いちばん勉強に集中できる時間帯のトップ3は「20～22時」(27.4%)、「18～20時」(20.7%)、「22～24時」(12.2%)という結果となりました。学校種別にみると、小学生は「16～18時」(23.2%)、中学生は「20～22時」(29.7%)、高校生は「18～20時」(25.4%)という結果で、**年齢との相関関係は無い**ようです。

一方、実際、授業以外で勉強する時間帯を聞いたところ、「20～22時」(32.2%)が最も割合が高く、次いで、「18～20時」(21.2%)、「22～24時」(12.2%)と、**集中できる時間帯と同様の結果**となり、子どもたちは**自分の集中できる時間帯に勉強している**ようです。学校種別にみると、小学生は「16～18時」(30.3%)、中学生は「20～22時」(35.0%)、高校生は「20～22時」(28.8%)という結果でした。

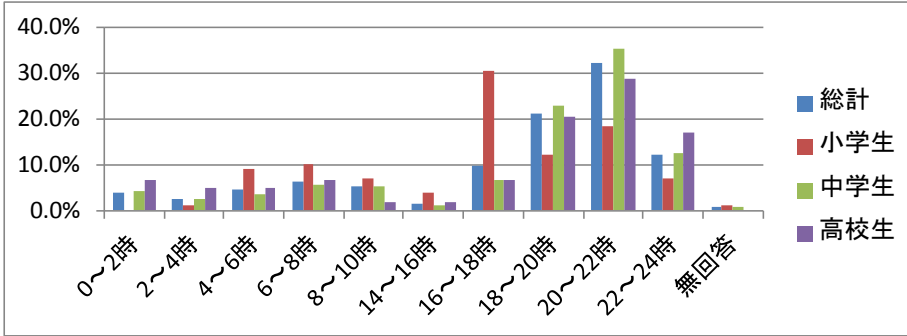
子どもたちが集中できる時間帯には、子どもの集中の妨げとならないよう、親側も心配りしてあげると良いのではないかと考えます。

■結果:「授業以外で勉強するとき、いちばん勉強に集中できる時間帯は何時ごろですか?」の回答(単一回答)



※本リリースの調査結果をご利用頂く際は、「すららネット調べ」とご明記下さい。

■結果:「授業以外で勉強するとき、何時ごろに勉強することが多いですか?」の回答(単一回答)



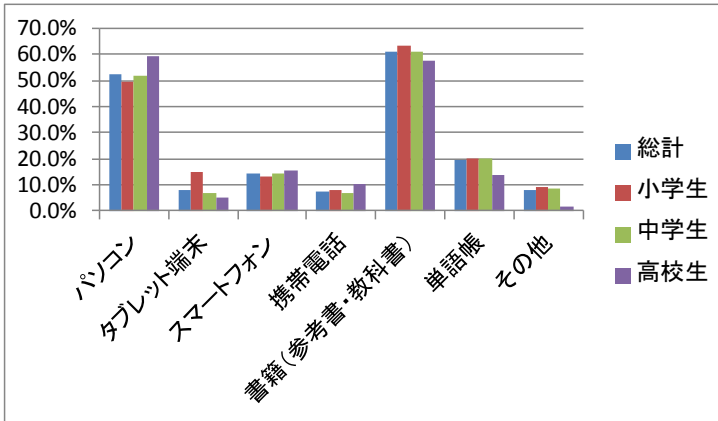
回答	総計	小学生	中学生	高校生
0~2時	3.9%	0.0%	4.2%	6.8%
2~4時	2.5%	1.0%	2.5%	5.1%
4~6時	4.4%	9.1%	3.5%	5.1%
6~8時	6.4%	10.1%	5.7%	6.8%
8~10時	5.3%	7.1%	5.3%	1.7%
14~16時	1.5%	4.0%	1.1%	1.7%
16~18時	9.8%	30.3%	6.5%	6.8%
18~20時	21.2%	12.1%	22.8%	20.3%
20~22時	32.2%	18.2%	35.0%	28.8%
22~24時	12.2%	7.1%	12.6%	16.9%
無回答	0.7%	1.0%	0.7%	0.0%

## 2) 小中高生が勉強で使うもの、「書籍(参考書・教科書)」「パソコン」の2強

授業以外で勉強する時、よく使用するものは、「書籍(参考書・教科書)」(61.3%)と「パソコン」(52.3%)が半数以上で抜き出て高い割合という結果でした。学校種別にみると、年代が上がるにつれ、「書籍(参考書・教科書)」の割合は減少し、「パソコン」・「スマートフォン」の割合が増加しています。しかし、「タブレット端末」については下の年代のほうが使っている割合が高い状況です。

宿題をSDカードで提出、といった学校が増加してきている、ということを目にしますが、「パソコン」が「参考書や教科書などの書籍」と肩を並べて、子どもたちの自宅学習等で使われているようです。

■結果:「授業以外で勉強するとき、よく使用するものは何ですか。」の回答(複数回答)

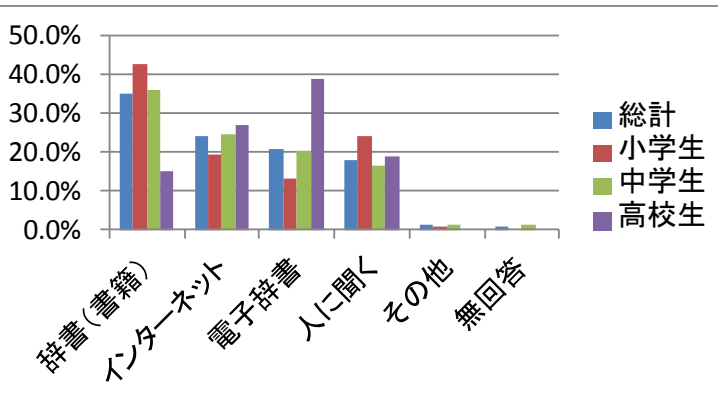


回答	総計	小学生	中学生	高校生
パソコン	52.3%	49.5%	52.0%	59.3%
タブレット端末	7.7%	15.2%	6.7%	5.1%
スマートフォン	14.2%	13.1%	14.3%	15.3%
携帯電話	7.5%	8.1%	7.1%	10.2%
書籍(参考書・教科書)	61.3%	63.6%	61.2%	57.6%
単語帳	19.6%	20.2%	20.2%	13.6%
その他	8.0%	9.1%	8.5%	1.7%

## 3) 小中高生が言葉の意味をデジタル(電子辞書・インターネット等)で調べる割合 4割強

言葉の意味を調べる際、最もよく使用する方法においては、「辞書(書籍)」が 35.1%で最も高く、次いで「インターネット」(24.1%)、「電子辞書」(20.9%)、「人に聞く」(17.8%)という結果となりました。学校種別によって、多少差はあるものの、半数近くが言葉の意味を調べるのに「デジタル」を最もよく使用しているようです。

■結果:「言葉の意味を調べる時、いちばん使用する方法は何ですか?」の回答(単数回答)



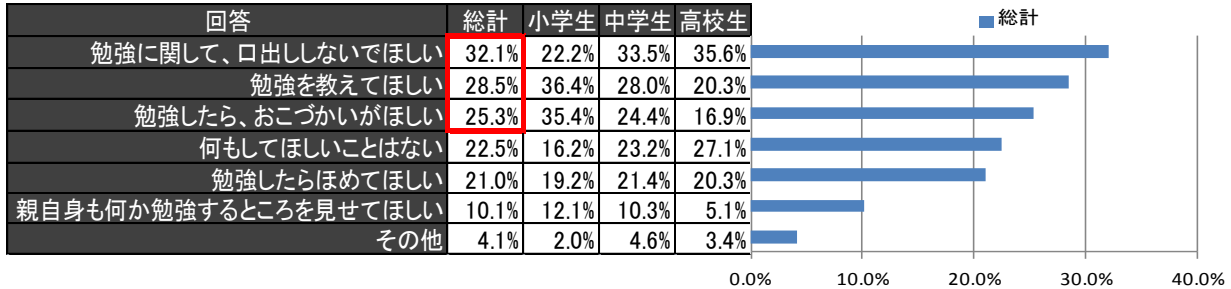
回答	総計	小学生	中学生	高校生
辞書(書籍)	35.1%	42.4%	35.9%	15.3%
インターネット	24.1%	19.2%	24.6%	27.1%
電子辞書	20.9%	13.1%	20.4%	39.0%
人に聞く	17.8%	24.2%	16.6%	18.6%
その他	1.1%	1.0%	1.2%	0.0%
無回答	1.0%	0.0%	1.2%	0.0%

# NEWS RELEASE

## 4) 勉強に関して親に最も望むこと、「口出ししないで」

勉強に関して、親にしてほしいことが何か聞いたところ、「勉強に関して、口出ししないでほしい」(32.1%)の割合が最も高く、次いで「勉強を教えてください」(28.5%)、「勉強したら、おこづかいがほしい」(25.3%)という結果になりました。親としては子どもがきちんと勉強しているのか心配で、つつい「ちゃんと勉強してるの?」といった口出しをしがちですが、子どもは口出ししてほしくない、という気持ちが強いようです。口を出すのなら、勉強を教えるくらい、深く関わってほしいと、子どもは望んでいるようです。

■結果:「勉強に関して、親にしてほしいことは何ですか?」の回答(複数回答)



## 5) 親より勉強ができないと思っている小中高生が半数以上

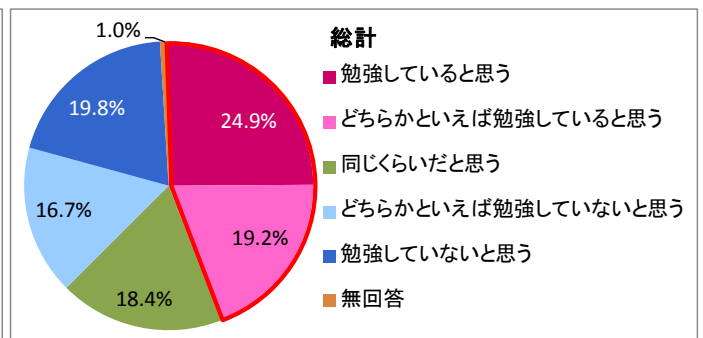
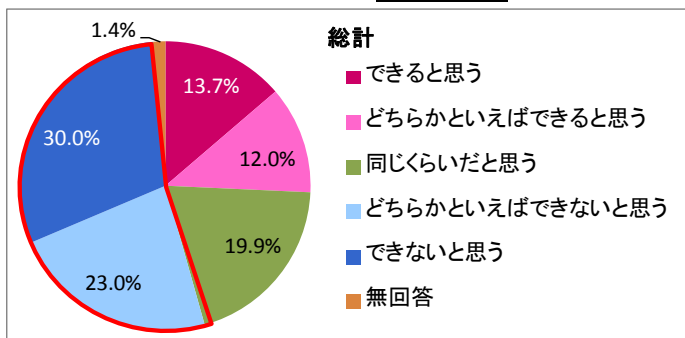
親と比較して、自分は勉強ができるほうだと思うか聞いたところ、「できると思う(「できると思う」・「どちらかといえばできると思う」の計)」が 25.7%であるのに対し、「できないと思う(「できないと思う」・「どちらかといえばできないと思う」の計)」が 53.0%で、親より自分は勉強ができないと思っている子どもの割合が高いことがわかりました。

一方、親と比較して、自分のほうが勉強しているかどうか、という問いでは、「勉強していると思う(「勉強していると思う」・「どちらかといえば勉強していると思う」の計)」が 44.1%であるのに対し、「勉強していないと思う(「勉強していないと思う」・「どちらかといえば勉強していないと思う」の計)」が 36.5%で、親世代より勉強している、と思っている子どものほうが多いようです。

勉強については、親より努力しているが、結果は出せていない、と感じている子どもが多いようですが、親は「そんなことも分からないの!」といった、子どもの自信を失わせる発言をしていないか振り返り、子どもの努力を認め、能力を伸ばしてあげる手助けをしてあげたいものです。

■左結果:「親と比べて、自分のほうが勉強ができますか?」の回答(単数回答)

■右結果:「親と比べて、自分のほうが勉強していると思いますか?」の回答(単数回答)



# NEWS RELEASE

## 6) 頑張る姿が励みになるスポーツ選手トップ 3、 「浅田真央」選手、「高橋大輔」選手、「羽生結弦」選手

頑張る姿が励みになるスポーツ選手のトップ 3 は、「浅田真央」選手、「高橋大輔」選手、「羽生結弦」選手と、フィギュアスケート選手が上位を占め、子どもたちの「フィギュアスケート」に対する関心の高さも伺わせる結果となりました。

トップの浅田選手は親しみやすいキャラクターでありながら、数々の世界大会で結果を残しており、高橋選手は度重なるケガに悩まされながらも立ち直り、日本を代表する選手として活躍、羽生選手は、まだ 10 代であり、子どもたち自身と年齢がそう違わないにもかかわらず、世界の大舞台で活躍している様子が励みになるのではないかと、考えられます。

■結果:「頑張る姿をみると励みになるスポーツ選手は誰ですか?」の回答 TOP10(単数回答)

	選手名	%
1	浅田真央	28.8%
2	高橋大輔	19.5%
3	羽生結弦	10.4%
4	高梨沙羅	4.1%
5	いない	3.5%
6	田中将大	2.9%
7	本田圭祐	1.8%
8	イチロー	1.4%
9	香川真司	1.1%
10	錦織圭	1.0%

### <調査概要>

- 1) 調査名 : 小中高生の「勉強」に関する意識調査
- 2) 調査方法 : eラーニング教材「すらら」のログイン画面にて回答を得た
- 3) 調査対象 : 小学 1 年生から高校 3 年生までの男女
- 4) 調査期間 : 2013 年 12 月 17 日～2014 年 1 月 15 日
- 5) 有効回答数: 723 名<男性: 55.7%・女性: 44.3%、小学生: 13.7%・中学生: 78.1%・高校生: 8.2%>

## ■オンライン学習教材「すらら」とは

【学習範囲】小学校高学年～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】英語・数学・国語

【ユーザー数】25,000名(2013年7月末現在)

【特徴】

### ○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は10から15分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

### ○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

### ○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでにどこまでの学習をするかといった「月1回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週1回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、オンライン学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでのオンライン学習教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型: カリスマ講師のレクチャー動画を視聴するタイプ  
「理解」にすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でないと、集中力が続かない。
2. 問題集型: 問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ  
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でないと一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型: 携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ  
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の“次世代型教育システム”です。

## ■すららの「ゲーミフィケーション的要素」

- ①他のユーザーと「総学習時間」や「クリアユニット数」で競い合う緊張感
- ②キャラクターによる対話形式で根本理解を深める本格的なレクチャー
- ③ドリルパートにて、生徒ごとにカスタマイズされた問題を解き、各ステージをクリアするという快感



努力指標（学習時間・クリアユニット数）におけるランキング

学習レベル：「累計総学習時間」「累計総クリアユニット数」によって自分のステータスが、ランクアップする仕組み

今日の目標一覧：自分or先生が設定した目標ユニットが表示される

クリアユニット数の推移



## ■株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008年8月 ○ 資本金：6,285万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：オンライン学習による教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL： <http://surala.jp/>